

2023年第3回定例会 一般質問②

京王多摩川駅舎のバリアフリー化でパラハートちょうふの実現を

(1)ホームドア設置は総合福祉センター移転前に完了する確約を

大きく2点目として、京王多摩川駅のバリアフリー化でパラハートちょうふの実現をと題して質問いたします。

まず、ホームドアの設置についてです。

総合福祉センターの京王多摩川への移転は、2019年11月、京王多摩川駅周辺地区まちづくり計画を長友市長が受理したことに端を発しています。2020年12月に始まった、整備に関する検討会やパブリックコメントを経て市の考え方をまとめ、昨年の3月からは新たな総合福祉センターの機能、設備に関する検討会において移転後の事柄について議論を重ねてきました。そして先日、7回目の検討会において、提言と附帯意見を盛り込んだ報告書案について最終確認がされたところです。

この間、私もほぼほぼ毎回傍聴をしましたけれども、委員からは繰り返しアクセシビリティへの不安のお声が聞かれました。先日の最終回においてもなお、アクセシビリティの問題が解決されるのか見通しを知りたいというお声や、アクセシビリティが確保されなければ、移転後のセンターについての検討も意味がないのではないかとといったお声があり、現在、市議会のほうには検討会の結果を保留にしてほしいという要望も届いております。これは計12回の検討会を経てもなおアクセシビリティ、中でも京王多摩川駅のバリアフリー化への不安が解消されなかったことの重大さを物語っています。

市のシャトルバスで全ての利用者の移動を解決するには限界があります。検討会においても、副会長のほうから京王電鉄も地域共生社会づくりのパートナーである以上、公共交通機関がアクセシビリティの課題解決に大きく寄与するべきであり、シャトルバスより駅舎のアクセシビリティが先だとの発言がありました。

しかし、バリアフリー特定事業計画を見ると、ホームドアについては設置するという回答ではありますが、実施時期は検討中となっています。駅舎の安全性は非常に重要であり、ホームドアはセンター移転前に完了していることが絶対に必要です。

そこで、この場で移転前のホームドア設置をしっかりと市民に確約をしていただきたいと思います。明快に御答弁をお願いいたします。

外環・交通担当部長答弁 総合福祉センターの移転を見据えた京王多摩川駅のバリアフリー化についてお答えします。

市は、昨年4月に策定した調布市バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地

区を新たに重点整備地区として位置づけるとともに、基本構想に基づき、各事業者が作成する調布市バリアフリー特定事業計画を本年3月に取りまとめました。

また、京王多摩川駅の利便性向上について、利用団体の代表者や学識経験者、鉄道事業者である京王電鉄の担当者等で構成する新たな総合福祉センターの機能・設備に関する検討会において、市は様々な意見をいただいております。

京王多摩川駅におけるホームドア設置について、調布市バリアフリー特定事業計画においては、事業実施予定期間が検討中となっていました。この検討会の中で、京王電鉄の委員から、全駅に整備を予定している旨の発言がありました。また、現在ホームドアが設置されている駅の中で、単に乗降客数といった基準だけでなく、駅周辺に特別支援学校があることから優先的な整備を行っている事例の紹介もありました。

あわせて、京王多摩川駅についても、駅周辺における開発の状況も十分に勘案しながら、ホームドア設置のスケジュールを考えていくといった趣旨の見解が同委員から示されました。

市は、こうした見解や現在取りまとめを行っている検討会報告書の内容を踏まえ、京王多摩川駅のさらなるバリアフリー化や安全性、利便性向上につながるよう、引き続き京王電鉄と協議を行ってまいります。

以上でございます。

<まとめ> 御答弁ありがとうございました。まだセンター完成まで3年ほどありますので、今の段階では設置時期まで公表できないということは一定の理解はできます。

一方、センターを含む開発の状況も十分に勘案しながらホームドアの設置時期を考えるという見解が京王電鉄から示されている、そういった市の認識が今御答弁の中で示されました。ということは、センター完成までのホームドア設置については前向きな姿勢がある程度、京王電鉄のほうから明示されているというふうに私のほうでは理解をしております。

ホームドア設置の正確な時期が見えてきた暁には、分かりやすいイメージとともに、いち早く利用者の皆さんに情報提供をしていただきたいと思います。そのことを要望いたしまして、2点目に移ります。

(2)早急にエスカレーターに代わる移動手段の提示を

エスカレーターに代わる移動手段の提示についてです。

新たな総合福祉センターの整備と機能に関する検討会の第5回目において、各委員から次々とエスカレーター設置の要望が出ました。しかし、京王電鉄からは、技術的な課題も

あり、また、経営状況を踏まえると設置できないとの回答であり、この姿勢は7回目の検討会においても同様でした。

センター利用者の中には階段での移動が難しい方が少なくありません。アクセシビリティ確保の具体的な内容が不明瞭な現状においては、センターの利用継続を既に諦めている方もいます。また、検討会では、移転先の再検討を求めるというお声さえ上がっているのです。

エスカレーターが設置されないのであれば、どのような代替手段を検討しているのでしょうか。バリアフリー特定事業計画にはエレベーターの大型化とありますが、どの程度の大型化になるのか。センターの利用者の皆さんの状況などをきちんと調査した上で決めていくのでしょうか。利用者の皆さんの不安なお気持ちをしっかりと酌み取り、利用者が納得できる、エスカレーターに代わる移動手段を早急に提示することが必要だと考えますが、見解をお答えください。

外環・交通担当部長答弁 京王多摩川駅における利便性の向上についてお答えいたします。

京王電鉄は、京王多摩川駅について、調布市バリアフリー基本構想に基づく特定事業計画の中で、エレベーターの更新、大型化のほか、可動式ホーム柵の設置や、ホームと車両の段差や隙間の縮小、車椅子利用者用トイレの更新などの安全性や利便性の向上、バリアフリー化に資する取組について、市と協議しながら推進することとしております。

また、市は、新たな総合福祉センターの機能・設備に関する検討会において、調布市バリアフリー特定事業計画の取組と連携を図ることを基本方針として示しながら、新たな総合福祉センターの整備を進める中で、京王多摩川駅の安全性や利便性の向上に資する取組について検討を進めてまいりました。

他方、エスカレーターに関しては、検討会において設置を求める御意見をいただいておりますが、京王電鉄からは、コロナ禍による厳しい経営環境の中、ホームドア整備等の安全性確保を優先する必要性から設置が困難であるとの見解が示されています。

こうした状況を踏まえつつ、今後も市は調布市バリアフリー推進協議会のほか、利用者や関係団体等の御意見を伺いながら、地域共生社会の充実に向け、新たな総合福祉センターの整備や京王多摩川駅周辺地区のまちづくりと並行して、エレベーターの更新、大型化など、京王多摩川駅における安全性の向上やバリアフリー化が図られるよう、継続して京王電鉄と協議してまいります。

以上でございます。

<再質問> 御答弁ありがとうございました。京王多摩川駅舎のバリアフリー化に向け

て、京王電鉄と協議を継続していくと、そのような御答弁でした。

一方、先ほども触れたとおり、検討会の委員の方々の中には、移転は一旦は容認したものの、団体を背負う、それも高齢の方や障害のある、そういった方々の団体を背負う責任ある立場として、利用者が本当に通えるかどうか、アクセシビリティが確保されるのか、それが確約できない現状のまま移転を受け入れて、果たして本当に大丈夫なのか、不安が払拭できない方もいらっしゃいます。

そこで、市長に再質問をいたします。

この総合福祉センター移転への今踏んでいるプロセスは、調布市にとって共生社会づくりの非常に重要な1ページです。パラリンピックを経験し、パラハートちょうふを標榜する調布市の旗振り役として、市長が自らビジョンを示し、こういった難しい局面では自ら説明責任を果たす、そういった姿勢を見せていただくことが非常に重要だと考えます。そして、私は今がそのときだと考えています。アクセシビリティ確保に向けた京王多摩川駅舎のバリアフリー化に対する市長の前向きな姿勢をこの場でしっかりと示していただき、利用者の皆様に安心してこれからの地域共生社会づくり、共にパートナーとして頑張りたいと思います。御答弁よろしくお願いいたします。

◎長友貴樹 市長 今、木下議員がおっしゃいましたように共生社会の充実、パラハートちょうふを進展させながら非常に大きなテーマであり、それから、総合福祉センターの移転はそれに関わる非常に重要な事項であると。おっしゃるとおりでありますから、まずはこれからも一生懸命取り組んでいきたいと申し上げます。

そして、具体的には、先ほど担当部長が申し上げましたように、新たな総合福祉センターの整備を進める中で、京王多摩川駅の安全性、利便性の向上、バリアフリー化に関する取組について、現在まで検討を進めてまいっているわけであります。

そして、調布市バリアフリー推進協議会のほか、利用者や関係団体等の御意見を伺いながら、地域共生社会の充実に向けて、総合福祉センターの整備に合わせて、京王多摩川駅における安全性の向上やバリアフリー化が図られるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

<まとめ> ありがとうございます。今の市長の御答弁で、利用者の皆さんにもしっかりと、センターの移転に間に合うようにアクセシビリティは確保されていく、その方向で調布市と、そして京王電鉄が手を携えて進んでいく姿勢が伝わったと思います。ありがとうございます。

今この事業につきましては、市役所の中では複数の部署が連携して取り組んでおります。そういったことから、今のよう、時折、市長のほうからしっかりと、市民だけでな

く、市役所の中に向かってもビジョンを示していただいて、全ての部署の職員、そして市民、利用者、みんなが同じ方向を向いて進んでいけるように、今のような旗振りの発言をしていただく、そのような機会をまた今後もつくっていただければと思います。

せっきくのこのセンター移転という共生社会づくりのプロセスの中で、市民が大きく分断することがあってはならないと思います。そのためにも市長のリーダーとしての今後の働きにも期待をさせていただきます、私の質問を終わります。

以上です。ありがとうございました。